

## 教員感想

王 英燕

今年は京都大学経済学部から慶應大学商学部に着任して初めての年です。ゼミ終了後の各チームへの指導を経て、春学期の最終回には正式に研究テーマを決めてもらいました。夏休み中に頑張って調査してくれたこともあり、大阪の夏合宿で途中経過を報告した時には、調査はほぼ終了していました。秋学期の5回のゼミでも各チームに対して個別指導を行いました。こんな短期間で想定以上の論文を提出してくれたこと、非常にうれしく思います。さらに、佐藤和先生のゼミ生とのインゼミで個々の問題点を指摘してもらったこともあわせて感謝いたします。

この論文集の中には4チームの4本の論文が載せられています。内3本が組織コミットメントまたは愛着関連の研究でした。他の『組織科学』の論文もいろいろ読んできましたが、難解な内容もあったためか、直接皆さんの研究のテーマとなったのは1本だけでした。来年以降はいろいろなテーマに挑戦してほしいと思います。

大崎・大津・鈴木・須藤論文では、学生アルバイトの組織コミットメントについて聞き取り調査を行いました。4本の論文の中の唯一定性分析を行った論文です。この論文は、スキル多様性、職務自律性、人間関係と人間的成長と職業選択の4点にわたって、聞き取り調査を行い学生の特徴を分析しています。スキル多様性、職務自律性と人間関係は企業における研究でも多く言及されていますが、さらに優先順位をつけることの重要性が今回の調査で示唆されました。また、人間的成長と職業選択について独自の着目点ができたことも興味深い結果です。アルバイトを始めたきっかけと自身の目標との関連や、中には将来の職業選択と密接に関連する人がいることも分かりました。この点をさらに掘り下げて、職業選択に関連付けるプロセス、アルバイト開始前、途中の変化などをより具体的に分析できれば、より内容の濃い論文になると思います。

上・浅野・松岡論文は学習意欲、学習行動とGPAの影響要因について、愛着と入学方式を注目しました。個人的には4本の論文の中で一番面白い結果が出ている論文だと思います。母校への愛着が学習意欲、慶應への愛着が学習行動にそれぞれ影響するという、興味深い結果が得られました。さらに、指定校推薦と一般入試の違いも一部検出されました。過去に自分が所属する組織に対する愛着の影響を調べる研究はそう多くなく、過去と現在の違いを示唆したものはさらに少ない状況です。た

だ、少し残念なことに、論文の推理と厳密性が不足しています。時間があればもっとよい論文に仕上げられたかもしれません。

黒沼・中野・山崎論文は大学生のネットワークとパーソナリティがキャリア意識に与える影響を調べました。社会的ネットワーク論の知見を生かして、学生のキャリア意識と就職活動の影響を調べたのは面白い着眼点です。弱い紐帯が学生のキャリア意識に強く影響を与えるという仮説を立てましたが、これは証明されずに普通に強い紐帯の影響が検出されました。さらに、外向性、開放性と勤勉性がキャリア意識と関連付けられていることも分かりました。本来はパーソナリティの直接影響より調整効果を想定していましたが、残念ながらほとんど検出されず、論文にまとめることはできませんでした。結果的にネットワークとパーソナリティという関連性の薄い二つの要因を調べることになってしまい、論文の枠組みの説明としては苦しい部分が残っています。

小出・野口論文はサークル集団における組織コミットメントを調査しました。この論文では、成員の過去の活動経験が情緒的コミットメントと存続的コミットメントに影響を与えるが、規範的コミットメントには影響しないことが示されました。さらに、集団フォーマル性は情緒的コミットメントに影響を与えるが、外部との交流回数の影響は検出されていません。過去の経験の影響を調べる組織コミットメント関連の研究は決して多くありませんが、その点でこの論文は独自の展開ができたと考えます。一方、問題点としては、過去の経験、集団フォーマル性と外部との交流とがそれぞれバラバラな視点であるため、サークル活動へのコミットメントを調べることの意義をさらに明確に述べる必要があります。